

委員会セッション「福島第一原子力発電所廃炉検討委員会」
1F廃炉に向けた技術開発の現状
(1) 公開シンポジウム報告

廃炉委運営タスク
中野宏之（東京電力HD）

シンポジウムの趣旨

- 廃炉委では、
 - **【問題点の共有】** 廃炉が抱える問題を解説し、広く理解を得る
 - **【解決策の提案】** 幅広に課題解決に向けた取り組みを進める
 - **【議論の場の提供】** 社会の皆様方からご意見を頂く場を持つことが役割と考え、毎年シンポジウムを開催※。※ 昨年度(2020年)は新型コロナウイルスの影響で中止
- これまでに5回開催し、廃炉について、様々な議論をしてきた。
- 本日は、**第5回シンポジウムについて報告**する。

第1回 東電福島第一原子力発電所廃炉への取り組み～過去・現在・未来～
(2016年3月6日 フクラシア東京ステーション H会議室 出席者150名)

第2回 東電福島第一原子力発電所の廃炉について～廃炉の状況と課題、その対応策～
(2017年3月11日 機械振興会館 多目的ホール 出席者144名)

第3回 東京電力福島第一原子力発電所の廃炉～廃炉の論点と展望～
(2018年3月18日 大手町サンケイプラザ 301-302号室 出席者80名)

第4回 東京電力福島第一原子力発電所の廃炉～確実な廃炉のために今すべきこと～
(2019年3月9日 機械振興会館 多目的ホール 出席者120名)

第5回 東京電力福島第一原子力発電所の廃炉 廃炉10年目の課題と展望 – より安全な廃炉に向けて –
(2021年6月12日 Zoomウェビナー 出席者282名)

第5回シンポジウム：廃炉10年目の課題と展望—より安全な廃炉にむけて—

- 日時：2021年6月12日（土）13:00～17:00
- 場所：Zoomウェビナー
- 主催：(一社)日本原子力学会・福島第一原子力発電所廃炉検討委員会
- 共催：福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会
- 協賛：(公社)日本地震工学会、(一社)日本機械学会、(国研)日本原子力研究開発機構

プログラム

座長：関村 直人 廃炉委副委員長（東京大学）

◆ 廃炉貢献への感謝状贈呈 中島 健（当時、日本原子力学会会長）

※※ 地元企業

安全かつ円滑な廃炉推進への貢献 ※

（高放射能レベルの排気筒遠隔解体工事の成功に寄与）

※ 廃炉貢献最優秀賞として廃炉委で表彰

【沢田 充佳（エイブル※※）
半澤 大輔（東電HD）

◆ 挨拶と報告

◆ 廃炉委から見た廃炉の現状

廃炉各分野に対応する5分科会での
技術検討に関する現状と展望を紹介

宮野 廣（廃炉委委員長）

① 廃炉における安全マネジメント

高田 考（東京大学）

② 福島第一原子力発電所の廃炉に向けたロボット技術の
現状と課題

大隅 久（中央大学）

③ 建屋の耐震性評価と維持管理

瀧口 克己（東京工業大学）

④ 事故炉における強度評価の考え方

鈴木 俊一（東京大学）

⑤ 世界の事故炉の廃止措置（廃炉）と環境修復

柳原 敏（福井大学）

プログラム（続き）

◆ コメンテーターとの意見交換

課題への取り組み
目標達成までをどう進めるか

- 技術面だけでなく、幅広い視野（**技術的側面と社会的側面**）から意見交換を行った。議論内容（一部）を示す。
 - **透明性を高めてほしいという、生データが大量に出てくる**。重要なところを解釈する作業が必要で、それが学会の役割ではないか。また、それをマスコミが更にわかりやすく伝えていく、そのような流れができるとうい。
 - 海外で事実を見ていないような報道に対しては、**きちんと正確な情報を示していく必要がある。仮に予想しないことが起こっても、決して隠さずに正直に示すことが重要**であり、それが説得力につながることになる。

コーディネーター：布目 礼子

（当時、日本原子力学会 広報情報委員長）

コメンテーター：

安藤 淳（日本経済新聞社）

小林 祐喜（笹川平和財団）

◆ 閉会の挨拶

関村 直人（廃炉委副委員長）

日本原子力学会HPにシンポジウムの講演資料を公開

https://www.aesj.net/aesj_fukushima/fukushima-decommissioning

アンケート集約結果

■ アンケート回答数

46名 / 出席者282名

■ アンケート項目

1. 今回のシンポジウムについて
(1)企画、(2)内容・わかりやすさ、(3)感じたこと、(4)廃炉に対する学会への期待
2. 今後の企画（催し・テーマ）、時期
3. その他（要望など）

